

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2020 Vol.104

何となく一緒に過ごす時間を大切に



みんなの居場所「ぱっと」(8P)で学生と一緒に食事をする子どもたち

- P1 [特集] 社会福祉事業所紹介
社会福祉法人「八頭町社会福祉協議会」
- P5 チャレンジ福祉の仕事
福祉のまちづくりの仕掛け人「社協マン」のチャレンジ
- P6 福祉専門職の紹介
理学療法士の仕事「やりがいと魅力とは、
- P7 福祉人材センター情報
鳥取県福祉人材センターのご案内

- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
みんなの居場所「ぱっと」
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
未来へつなぐ高等学校ボランティア部員からのメッセージ
- P11 ことぶき高齢者情報
執筆協力者のみなさんに向けて
- P12 ことぶき高齢者情報
介護しながら趣味に生きる32年間
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

社会福祉法人 八頭町社会福祉協議会

八頭町社会福祉協議会では、八頭町と一体的に「八頭町地域福祉推進計画」をつくり、
『みんなで支えあい 誰もが自分らしく いきいきと幸せに暮らせる福祉のまちづくり』を基本理念に
地域共生社会の実現に向けた取り組みを住民と一緒にやってすすめています。
その計画の重点事項が、住民が主体となり町内の旧小学校区単位で設立した
『まちづくり委員会』の活動です。

八頭町社協は、そのまちづくり委員会の活動への住民の理解を広め、

その後の活動を見守りながらバックアップしていきます。

地域の人と人の関係性をとり持ち、「みんなが“自分のこと”として
地域のことを考える」よう働きかける、社協の仕事の魅力を探りました。



社協マンは福祉のまちづくりの仕掛け人



まちづくり委員会の集まり

また、福祉施設の運営と福祉サービスの提供では、福祉サービスのコーディネーターや家族への介護指導を行うなど、福祉にかかわる専門職の集まりもあります。

社協は、住民からのさまざまな相談や調査活動によって、地域の福祉課題を見つけ、解決に向けた活動から、新たな福祉サービスの企画実施を行う、地域のすべてにかかる「福祉のまちづくり」の推進役です。

住民の主体的な活動を

八頭町内の14地区のうち現在12地区で、まちづくり委員会が多彩な活動をしています。それは、旧小学校区ごとの小地域にある福祉施設をホームグラウンドとして、10年後の地域福祉を見据えた、住民による地域で暮らす人たちの生活や福祉の課題解決に向けて、住民が組織的に取り組み、解決に結びつけられるよう支援しています。

そして、地域の社会資源を活かし、住民と協働したネットワークで、「地域福祉」の「まちづくり」をすすめるのが社協職員（社協マン）です。



交流会

それは、世代を超えて福祉について考える交流の場となりました。関係が薄れてきた地域と住民をつなぎなおし、さまざまな人や団体などを結ぶ機会ともなっています。

八頭町社協の平木ひろみ事務局長は「社協では、地域共生社会の実現のために、住民参加ですすめる『福祉学習プラットホーム』機能の確立をめざしています。住民の福祉へ

の関心や福祉教育は、実現に向けた大きなポイントであり、その中でまちづくり委員会との連携は重要で、欠かせない福祉組織だと考えています」と話します。

社会福祉法人
八頭町社会福祉協議会
ひらき
平木ひろみ
事務局長



社協マンは「まちづくり役割」を担つて

まちづくり委員会は、高齢者対象の活動を軸にしつつ、子どもたちや学生、当事者との交流も進めています。

夏休みや冬休みの期間中に福祉施設を利用して、地域の子どもたちの居場所づくり、交流の場づくりを行っており、そうした場に、鳥取大学や鳥取環境大学の学生ボランティア、鳥取医療看護専門学校の福祉実習生を受け入れ、子どもたちと学生、高齢者を交えた多世代の交流が各地区で行われています。ある地区では鳥取大学の学生をボランティアではなく地域調査実習で受け入れた際は「もっと幅広い層に活動の輪を広げなければ、地域共生社会は実現できなのではないか」という提言をもらいました。それを委員会として受け止め、障がい作業所や作業生との交流会の実現へと進み、名前を呼び合えるような自然な関係づくりを目指した、誰でも気軽に集まる地域共生食堂という取り組みも試験的に行うこととなりました。

鳥大と環境大の学生と委員会をつないだのは、社協の事業や各地区で行われている行事を通じ、以前からつながりをもつていた社協のコミュニティソーシャルワーカーの藤田亮一さんです。

「学生たちは、地域福祉や地域コミュニティに興味をもつて主体的に参

がり続け、お互いに学び合える関係ができるることを大切にしています」と藤田さんは話します。

そして平木事務局長は「学生には福祉学習の実践の場となり、子どもや高齢者にとっては良い刺激となります。お互いに普段できない、世代を超えたふれあいの機会となり、



藤田亮一さん



まちづくり委員会と小規模作業所との交流から広がった「空き缶回収」のボックス設置と、作業所で作られた菓子を販売するなど、委員会と地域との親睦と交流の機会が広がっています。



まちづくり委員会では、小学校統合で学校が地域から無くなつても子どもたちとつながりを続けたいという思いが、委員会から出たことから、小学生の保護者とのつながりづくりへと進み、独居高齢者との「なかよ会」での交流の機会がつくられるこ

とにかくみんなが まぶれよう!

まちづくり委員会を立ち上げたことで「住民にふところの広さが生まれた」と、みなさんと一緒に感じています。一段階一段階ごとに手応えを感じながら、住民との信頼関係を築くことを前提として、根気よく、地域と人を結びつけたり、巻き込みながら、福祉のまちづくりの仕掛け人としての取り組みがすすめられています。

よう」と平木事務局長は、社協の仕事をやり甲斐を感じさせます。

ととなりました」と話します。
そこで、子どもたちが「なかよし会」への招待をかねたメッセージカードを高齢者に向けて作り、当日にメッセージを書いた子どもと受け取った高齢者が会うという、微笑ましい動きも生まれました。西尾課長は「とにかく、子どもも大人もみんなが『まぶれよう』（群がろう）」という考えですね」と、福祉のまちづくりは人ありとい、社協の仕事の面白味について教えてくれました。



西尾美砂代課長

[概要]

- 所在地／本所：鳥取県八頭郡八頭町宮谷254番地1
船岡支所：船岡殿159 八東支所：八頭町東593-1
- 開設日／2005(平成17)年7月1日
- 運営主体／社会福祉法人八頭町社会福祉協議会
- 職員数／本所46名、船岡支所36名、八東支所38名(合計120名)
 - 地域福祉：コミュニケーション・ソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター、各相談専門員
 - 地域事業(介護・障がい福祉)：介護支援専門員、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、ほか総務課職員
- 活動内容／地域福祉推進事業、福祉サービス利用支援、在宅福祉サービスの提供
- 利用相談窓口／当該法人および施設



Challenge チャレンジ福祉の仕事

社会福祉法人
八頭町社会福祉協議会

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事を就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

山本誠さんは大学を卒業してから、八頭町社会福祉協議会（社協）に入職し、ボランティアコーディネーターとして2年間務めたあと、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）になって現在4年目の「社協マン」です。



CSWは、地域で生活上の課題があるなど、困っている人や家族を支援する個別支援とともに、その人が暮らすエリアの生活環境の整備を行います。

具体的には、支援を必要とする人に対し、安否確認や見守り、生活課題の発見、相談援助から、必要なサービスや専門機関へのつなぎなどを行います。また、地域の組織化、ネットワーク化といった、住民同士の支え合いの活

動でともに暮らせるようにサポートをしています。

地域活動では、住民による『まちづくり委員会』の立ち上げから、その活動に至るまで継続して支援を行っています。「活動にかかわっている皆さんは、自分たちの地域や福祉に対して、それぞれの想いをいだいています」と、顔の見える関係性を築くことで、肌感覚でその気持ちをくみ取るようにしています。

そんな委員会の取り組みが、ほかの団体とつながることにより、新たな次の目標が生まれることがあります。

手応えを感じながら 社協マンとして

動支援のほか、新しい仕組みづくりのための調整やコーディネートを行うなど、「地域の福祉力」を上げるために専門職です。



山本さんは、地域活動にかかわりながら、生きづらさをかかえる方や家族の課題を発見し、個別支援を行っています。そして、地域の中でその方を受け止めてもらえるよう、地域の皆さんへの問題提起や、その課題を共有し、地域でともに暮らせるようにサポートをしています。

東郡家地区のまちづくり委員会と福祉作業所「たんぽぽ」との交流から、相互理解が深まる中で「たんぽぽ」がしていた資源回収を、まちづくり委員会が施設に「空き缶回収ボックス」を設置したり、地域内に広く協力を呼びかけたりと、地域が福祉作業所を応援する取り組みが一歩進められました。

「そんな場面に立ち会えることや、そのような人たちと一緒に活動できることは、自分自身の学びにもつながります。」と山本さんは言い、そんなところがこの仕事の魅力だと話します。

地域の人たちと一緒に、自分のこととして楽しみながら

【ミコ】ティソーシャルワーカー 山本 誠さん



また、住民の方々とかかわりを深め

る中で、些細なことでも連絡をもらったり、社協からの提案に耳を傾けてくれる人がいます。そんなとき「それまでかけてきた手間や共有した時間、そして自分自身が悩んだ分だけ、信頼というカタチで返ってくるんだなあ」と、日々感じているといいます。

そして「住民の皆さんから、同じ目標に取り組む『仲間』として見てもらえたと感じる瞬間は、何となく自分がほめたくなります」と笑顔を見せます。

社協マンが相対するのは、地域という「個人」の集合体です。山本さんは「それぞれの方の想いの違いや温度差を認識して、その人その場に適した対応をするように心掛けていますが、この仕事を行ううえで一番大切なことは、支援者と対象者の境目を超えて、地域活動を自分のこととして一緒に楽しむことだと考えています」と、胸に秘めた情熱を感じさせます。

福祉専門職の紹介 理学療法士

リハビリを生活習慣にしてもらえる喜び



ある一日の
Work Style



社会福祉法人 八頭町社会福祉協議会

理学療法士 山根 やよいさん

理学療法士は病気やけがなどで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、歩く、立つ、座る、起き上がるなどの基本的な動作の回復や維持、及び障害の悪化の予防を目的にリハビリテーションを提供する仕事です。治療や支援の内容においては、対象者一人一人の身体能力や生活環境などを評価し、医師の指示や看護師や医療技術職、介護福祉士、介

教育、介護予防事業）、行政サービス（健康福祉サービス（障害者福祉センター、障害児（者）通所入園施設）、スポーツ分野など多岐に渡ります。

通所介護（デイサービス）での理学療法士の仕事の内容は、介護支援専門員（ケアマネジャー）が作成する居宅サービス計画書に基づき、身体面の評価や住環境の評価を行い個別に機能訓練計画書を作成することから始まります。お一人ずつの訓練プログラムを立て、日常生活でもご自身の力で可能な限り出来るよう、看護師や介護スタッフと情報を共有し支援をしていきます。例えば入浴時の更衣や洗髪、洗体などスタッフが全て介助し

護支援専門員（ケアマネジャー）や家族などさまざまな人たちからの情報を元に連携を取りながら、運動療法や物理療法（温熱、光線、水など）を用いてそれぞれの目標に向けて適切なプログラムを作成していきます。

理学療法士の仕事の内容、やり甲斐や魅力は何ですか？

理学療法士の活躍の場所は、介護保険サービス（通所リハビリや通所介護、訪問リハビリなど）、医療サービス（病院、診療所）、保健サービス（健康

てよかつたなと思います。また通所介護では高齢の方の生活や今までの生活歴に触れて頂くので、様々な価値観や人生をお聞きすることが出来るのが私にとっては大きな魅力です。

やり甲斐は、一人の利用者様のことと話し合いをし、機能訓練を行い、数か月後、いい結果になったとき、頑張ったよかったです。

「Jの仕事についてよかつた」と思ひほどのはどんな時ですか？

例えば『今まではオムツでの排泄だったのにトイレに行つて排泄が出来るようになった！』、『曲がって歩いていた腰が伸びて歩けるようになつた！』など良い傾向が見られた時



職業柄、痛みをなくすこと、関節の硬さを和らげるのに注目しがちになってしまいますが、常に課題となる問題点に目を向けて生活習慣や生活背景などをよく理解して機能訓練を提供できるように心がけています。

利用者や利用者様に関係する家族やスタッフからの報告があったときは、とてもうれしく、やり甲斐を感じます。

仕事の中で大切にしていることは何ですか？

休日は何をして過ごしていますか？

毎日子どもの世話や保育園への送り迎えと仕事でバタバタしますが、休日は出来る限り一緒に時間を過ごし遊ぶようにしています。庭で土いじりと一緒にしたり、公園で自転車の練習をしたり、沢山走り回ったりして過ごしています。また、休みの日に食材や日用品を一気に買いだめすることがストレス発散になります。

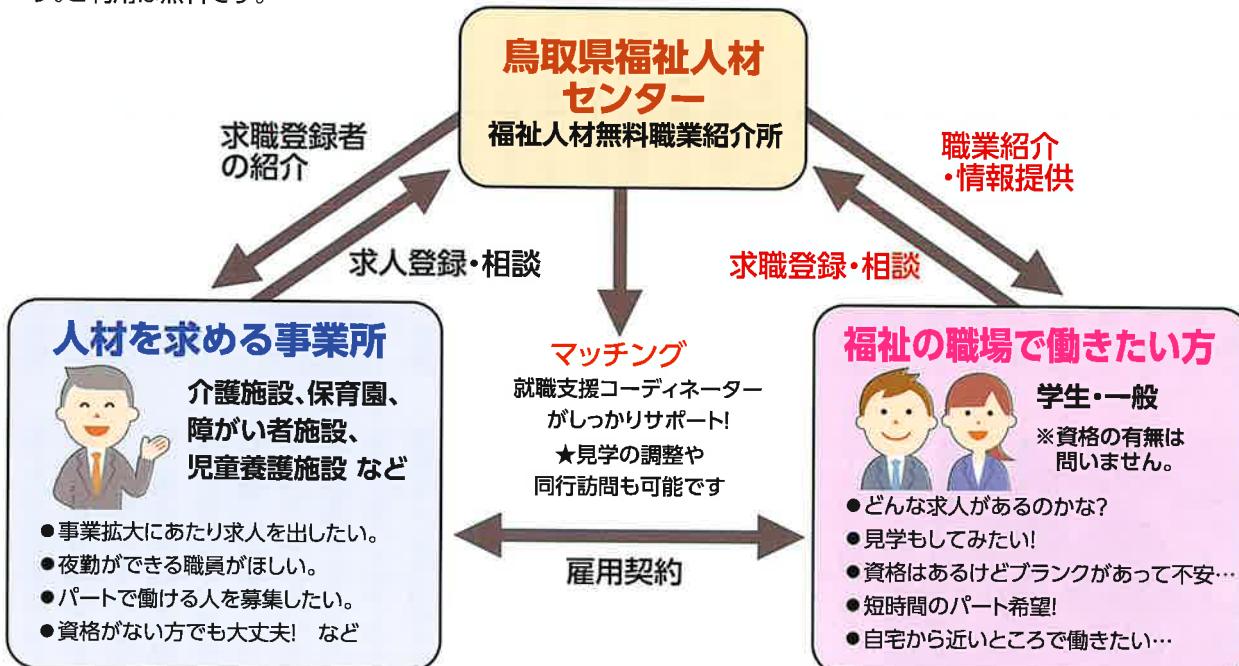
鳥取県福祉人材センターのご案内

福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

■無料職業紹介事業

福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行ないます。また、人材を求める事業所には、求人の条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



\まずはご相談ください /

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201鳥取市伏野1729-5 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人の登録・求人票の閲覧ができます。

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索



とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

みんなの居場所「ぽっぽ」

ボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援を中心としたボランティア活動や災害ボランティア活動情報を速やかに入手し、発信する場として『とっとりボランティアバンク』があります。

その中でも、ボランティアとともに活動したいという登録団体を紹介します。

[ホームページ] <http://www.torivc.jp/>



大谷直史さん

誰もが気軽に「じられる場所」に

みんなの居場所「ぽっぽ」のベースは、鳥取市湖山町の鳥取大学のほど近くにある、築約150年の古民家です。午前中は月一回の歌声サークルや、不定期のお菓子作りなどの教室が開かれ、昼間は放課後児童クラブで、小学生やボランティアなど約50名が過ごしています。

その大きな古民家の1階が「フリー スペース」といわれる、みんなの居場所です。学校が終わると子どもたちがつぎつきとやってきて、宿題をしたり、本を読んだり、ボードゲームをしたり、広い庭を走り回ったりと、思い思いに過ごしています。そんな子どもたちとかかわっているのは、学生、地域の方、教員、子育て・市民活動の経験者など約30名のボランティアです。

「ぽっぽ」は、鳥大教員養成センター准教授の大谷直史さんが開設して18年になります。「子どもが成長には家庭と学校以外の第三の居場所(カードプレイス)が必要だと感じた」と話す大谷さんは、「子どもたちから『ボス』と呼ばれ

ています。また「同居人」と自称する通称「あきさん」とともに、第一の親のように慕われています。

「ぽっぽ」ができた当初からある「無料塾」は、今でも毎週土曜日に開かれ、小中学生のほか、受験前の高校生も利用します。また不登校の子どもたちの学びの場にもなっています。そして昨年から、鳥取市の放課後児童クラブにも取り組み、たくさんの子どもたちが「ぽっぽ」で放課後を過ごしています。

開設時から、夜までいる子には、一緒に食べる? と語りかけていましたが、3年前より「じても食堂」となりました。現在は、毎週用曜から土曜日に夕食を提供しており、安価で誰もと一緒に食べられる「ぽっぽ食堂」となっています。

ぽっぽ食堂では、「ぽっぽ」の活動と共に感じてくださる地域の方がボランティアで食事を作ります。また、これまで地域の方や子どもたちの祖父母が、畑でできた野菜を持ってきてくれていてましたが、「子どもも食堂がはじまる」と企業からも肉や魚などの提供を受けられるようになりました。

大谷さんは、ボランティアの学生や地域の方に支援をする、教えるところのような成果を求めるのではなく、子どもたちとの関わり合いの中で生まれる、目に見えない関係性を大事にしているようにしています。

「子どもたちが来たら、何か特別なこ



後方左から2人目が「あきさん」

【問合せ先】
みんなの居場所「ぽっぽ」

鳥取市湖山町北1-6664
TEL & FAX(080-9475-0307)(大谷)
携帯080-9475-0307
e-mail : ibasho.pot@gmail.com

未来へつなぐ高等学校ボランティア部員からのメッセージ



インタークトクラブ活動の様子。指導者講習会で国際理解をテーマにハンガリーと韓国のお菓子を作りました

今回、取材したのは鳥取敬愛高等学校ボランティア部で活躍されているSクラブとインタークトクラブです。まずのクラブ顧問の先生有本妙佳先生、部員の木村遥香さんそしてインタークトクラブ顧問の岸本愛子先生、部員の小谷彩翔さんにそれぞれの部活での取り組みや同世代ボランティアの魅力についてメッセージを発信してもらいました。

「のクラブ」では国際ソロアシミスト鳥取の会員の皆さんと生徒が学校や地域社会で奉仕することの意義を学び、リーダーシップを發揮して様々なボランティア活動を行っています。今年度は17名の会員があり、そのうちの7名は新入会員です。新入会員は宣誓を行い、友情やリーダーシップ、奉仕の輪を育てるこを誓います。活動内容としては留学生日本語弁論大会などの運営ボランティア、商品販売ボランティア、そして施設訪問など、人とのふれあい、出会いを大切にした活動を行っています。



インタークトクラブ顧問の岸本先生

ボランティアから
蓄えられた貴重な財産

次に実際の活動に触れ、今年でボランティア歴3年となるSクラブ顧問 岸本先生)



Sクラブ木村遥香さん

学校ボランティア部で活躍されているSクラブとインタークトクラブです。まずのクラブ顧問の先生有本妙佳先生、部員の木村遥香さんそしてインタークトクラブ顧問の岸本愛子先生、部員の小谷彩翔さんにそれぞれの部活での取り組みや同世代ボランティアの魅力についてメッセージを発信してもらいました。

県内の高等学校で活躍している部活ボランティアの取り組みを取り組みを通してボランティア活動参加への魅力を発信する特集を企画。取材をとおして部員が実際に体験談から学び、同世代へと贈るメッセージを届けます。

今回、取材したのは鳥取敬愛高等学校ボランティア部で活躍されているSクラブとインタークトクラブです。まずのクラブ顧問の先生有本妙佳先生、部員の木村遥香さんそしてインタークトクラブ顧問の岸本愛子先生、部員の小谷彩翔さんにそれぞれの部活での取り組みや同世代ボランティアの魅力についてメッセージを発信してもらいました。

最初に各部活における主な活動内容や取り組み等を顧問の先生方に紹介していただきました。

鳥取敬愛高校 ボランティア部の活動紹介

最初に各部活における主な活動内容や取り組み等を顧問の先生方に紹介していただきました。



Sクラブ顧問の有本先生

は地域社会に奉仕することとも、国際理解を推進し、自己の向上に努めるという活動方針のもと、様々なボランティア活動を行っています。部員数は男子1名、女子4名で活動しています。鳥取ロータリークラブの支援を受け、鳥取砂丘や青島の清掃活動や車いすマラソン大会、老人福祉施設訪問など楽しくボランティア活動を行っています。

今後については、新型コロナワイルスの影響もあるため、状況を判断し、外部団体と連絡をとりながら、活動していく予定にしています。(Sクラブ顧問 有本先生)

共に始めよう！ボランティア参加の魅力

鳥取敬愛高校

今後については、新型コロナワイルスの影響もあるため、状況を判断し、外部団体と連絡をとりながら、活動していく予定にしていています。

また、「インタークトクラブ」では地域社会に奉仕することとも、国際理解を推進し、自己の向上に努めるという活動方針のもと、様々なボランティア活動を行っています。部員数は男子1名、女子4名で活動しています。鳥取ロータリークラブの支援を受け、鳥取砂丘や青島の清掃活動や車いすマラソン大会、老人福祉施設訪問など楽しくボランティア活動を行っています。



インタークトクラブ部の皆さん



鳥取県ボランティア
キャラクター
「はーちゃん」



国際ソロプロミスト鳥取の皆さんと一緒に活動の様子。クリスマスケーキを作り松の聖母学園を訪問し、クリスマスソング手話合唱と大型絵本の読み聞かせを行いました。

続いてインター
アクトクラブ所属
高校2年生の小谷
彩翔さんにも同様
にお聞きしました。
「幼いころ友だ
ちにボースカウ
トに誘われ、活動
したことがあつた
けで入部。ボラン
ティアはすぐに誰
かの役にたつてい
ることは見えにく
いが、自分の活動
を通じて必ず誰か
の役にたっている
ながりを感じる。
特にありがとう、
ご苦労様と声をか
けてもらつた時は、

Yell for you! 今、伝えたいメッセージ



インターアクトクラブ小谷彩翔さん

」のように頑張つてらる部員のみ
なさんへ顧問の先生方からメッセージ
をいただきました。まず、Sクラブ
顧問の有本先生からは「国際ソロプロ
ミストの会員の皆様とお話をした
り、地域行事のボランティアに参加
したりすることで、様々な年代や環
境におられる方々と触れ合い、刺激
を受け、社会の中の自分の役割を
しっかり考えることができいると
感じています。ボランティアの回数は
少ないですが、その分、一回一回を大
事に活動していきたいです」と話さ

属の木村選手さんに活動の魅力について尋ねてみました。「いろいろな人と交流し、「いい」「いい」とコミュニケーション能力を高めたことがきっかけとなり入部。学校生活では、学年の垣根を超えて、一緒に汗を流したり、話をしたりできるところが良い。また

普段の学校生活では関わる」とができない、様々な立場、年齢の方々と触れ合うことができ、視野を広げられることのが魅力。むろんティアをして自分一人の力ではできなないことも、協力することに乗組み、目標を達成できた後の皆さんの笑顔にボランティアをして良かったと感じました。

笑顔にボランティアをして良かつたと感じる」と話してくれました。

続いてインター
アクトクラブ所属
高校2年生の小谷
彩翔さんにも同様
にお聞きしました。

ボランティアしてよかつたと実感する」と話してくれました。お一人とお二人でボランティア経験を通して、とても貴重な心の財産となつてゐる印象を受けました。

また、気が付かぬうちに自分自身に自信が持つつかと違つた「積極性」や「やさしさ」と繋がる貴重な財産へと変わったことを実感されました。

そして最後に部員のお一人からも同世代の皆さんへ向けてメッセージを届けたと感じます。

「ボランティアを通して、たくさんの人と触れ合つ」ことができます。楽しい仲間を作る事ができるので、ぜひ、気軽に参加してください!」

（Sクラブ部員 木村さん）

「ボランティア活動を通じて他学年はもとより他校・他県の友人もできる」と間違ふなし。これから活動しましそう!」（インターアクトクラブ部員 小谷さん）

併せて「ボランティアへの参加は不安や戸惑いがあり、自分の知らないことも多いけれど難しく考えるのではなく、勇気をもつて行動する」との大切さに気付いて欲しい。そして同世代のみんなべとボランティアの魅力に気付くきっかけとなるように呼びかけていきたい」と同世代の皆さんへ熱いエールを送ってくれました。ぜひ、お二人からのメッセージが一人でも多くの方へと届き、繋がっていきたいと願つてごまます。

執筆協力者のみなさんに向けて

執筆協力者のみなさん



竹本万壽子さん



中本倫子さん



清水はるみさん



岡田信行さん

「県社協」コースをはじめ、機関誌の「志あわせへ」や年に3回発行の「HOTtey e」などがあります。ホットトイの「ことぶき高齢者情報ペー

ジは、4人の執筆協力者のみなさんによる題材を探していただき取材し、記事を書いていただいている。

読者のみなさんにより読みやすく、関心を持つていただける内容とな

るよう毎年、研修会を行っています。

今年度は、県社協の広報等に関わる職員も参加し一緒に学びました。

研修テーマは取材の仕方・記事の書き方

ひとりりいきいきシニアバンク「生涯現役」アドバイザーの勝原公一さん

から「記事の書き方・取材の仕方」を

講義のポイントとして先ずは心掛けについて学びました。

「話すこと、聞くことは好きですか。それができれば、だれでもレポーター

たつても記事はかけません。見出しが決まらなければ、いつまでを考えながら、メモを取りましょう。

時間があればその記事をひと晩ねかせてみてください。一層よい記事になります。たくさんのヒトにあって、いろいろ学びましょう」など、とても分かりやすい研修会でした。

研修会を終えて

研修終了後、「今日は研修会に参加してよかったです」「楽しくて、勉強にな

か人との会話は難しいですが、みなさんは、まだまだ、人生を楽しんでいただきたいと思います。

「県社協」情報誌は毎月発行の

学びました。

勝原さんは鳥取県の地元紙「新日本海新聞社」の元記者（元西部本社代表）です。県内各地や大阪・東京などで記者活動をし、長く1面コラム「海潮音」などを担当されました。

退職後は鳥取県産業振興機構で農商工連携や6次産業化の普及に努め、現在は鳥取県社会福祉協議会

の「生涯現役」事業で活躍中です。

勝原さんは多彩な人生経験やコロナウイルス禍など最新の社会問題も交えて、わかりやすく話題提供され、アカペラで歌も披露され、楽しい研修が続きました。

になります。ヒトが好きなら、なおよ

します。しかし、ヒトは残念ながら生老病死、四苦八苦の人生です。どう生きるかは心がけ次第です。お天道さまはだれにも等しく当たります。

そしてだれもが多くのヒトに生かされています。レポートするときは、少しだもよいから、そのヒトの人生に触れてください。そのヒトの世界に学びたいものです」と述べられました。

また、取材時のポイントについても多くのヒントをいただきました。「取材を行ううえでは、事前取材が欠かせません。予習です。そうすると7割

が決まります。お会いすると必ず驚きや発見があります。伝えたい見出しが決まるとき、もう記事は仕上がったようなものです。見出しが決まらなければ、いつまで

たつても記事はかけません。見出しを考えながら、メモを取りましょう。

そしてみなさんは、読者の方から「良かったよ」といわれた時がなによりもうれしく、励みになるそうです。また、題材を探すにあたりアンテナをはりめぐらす、これもまた、仲間づくりにつながっているのではないかでしょう。



勝原公一さん

介護しながら趣味に生きる32年間



米田睦栄さん

趣味にいかされ、落ち込む姿を見せず32年間ご主人と娘さんの介護を続けた、倉吉市鴨河内にお住いの米田睦栄さん(78)にお話を伺いました。

32年前、大阪で就職したばかりの次女が突然の病に倒れたとき、

「社交ダンス」を断念するべきかと思いつぶやいていた主人や子ども達からの「協力するから続けていいよ」と優しい言葉で続けることができました。

趣味のことをお聞きすると「私にとって趣味は生活の気分転換と

32年前、ご主人が病に倒れ、一命はとりとめたものの車椅子での生活を余儀なくされました。そんな中、

「社交ダンス」を断念するべきかと思いつぶやいていた主人や子ども達からの「協力するから続けていいよ」と優しい言葉で続けることができました。

介護生活では家族が楽しく元気に過ごせるようにと、旅の思い出の写真や家族の日々の様子、世の中のことを記事に、パソコンで「家庭新聞」を制作されたそうです。また、ご主人が亡くなられた後、今まで

社会福祉のお世話になつたことか

いきいきシニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を 同世代のことぶきレポーターが取材します。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。



社交ダンスでポーズをとる米田さん

取材を終えて一言
中本倫子さん(倉吉市)
米田さんの明るい笑顔に救われた取材でした。趣味活動が心を豊かにし、健康の源になると感じさせられました。

「学ぶ楽しさ」とおっしゃいます。介護をしながらできる楽しみはないかと考えていた時、「社交ダンス」に出会ったのだそうです。「思い切って始めてみると、実際に楽しくはまってしまった。この楽しみは、家族皆の協力があつて今まで続いている。ねんりんピックにも数回参加でき、私の人生の思い出ができた。そしてこのダンスのお陰で、家庭の介護の生活も頑張れたと思う。三人の生活はいろいろあつたが家族のお陰で私の中の心持も広かつたと感謝している」とおっしゃる米田さん。

これからは少しゆっくりなさうで、長い間、心の支えになつた社交ダンスを心ゆくまで楽しんでくださいね。残されたご家族の大きな愛情で32年間の人知れない痛み、苦しみ生活もこれから的人生に大輪の花を咲かせる時がきっと訪れるこ

ら少しでも恩返しができれば、娘さんがショートステイを利用している間にデイサービスで話しかけやお手伝いなどのボランティアをされたこともあったそうです。娘さんが亡くなり昨年10月から一人暮らしをされている米田さんは「娘は32年間、夫は18年間の闘病生活で一口には言えない色々なことがありました。今一人暮らしになって言えば、三人家族で暮らせたことが一番楽しかった」としみじみ呟かれます。

娘さんが亡くなり昨年10月から一人暮らしをされている米田さんは「娘は32年間、夫は18年間の闘病生活で一口には言えない色々なことがありました。今一人暮らしになって言えば、三人家族で暮らせたことが一番楽しかった」としみじみ呟かれます。

福祉の就職・転職フェアとっとり2020夏 開催決定!

学生さんからシニアの方まで! 福祉の仕事で働きたい人集まれ!

福祉の職場に就職・転職を希望する学生・社会人の方と、県内で福祉事業所を運営する法人が集まって採用や業務内容に関する情報交換ができる合同説明会を開催します。福祉のしごとに興味がある方、未経験の方もサポートしますので、ぜひご参加ください。

※新型コロナウィルスの影響などにより延期、中止となる可能性があります。

〈東・中部会場〉

令和2年8月19日(水)

13:15～16:00

とりぎん文化会館 小ホール

(鳥取市尚徳町101-5)

※前半13:25～14:35、後半14:50～16:00で
法人ブースが入れ替わります。(一部除く)

〈西部会場〉

令和2年8月8日(土)

13:15～16:00

米子コンベンションセンター

多目的ホール

(米子市末広町294)

■対象職種

介護職、保育士、相談職、生活支援員、看護職、栄養士、調理員、理学療法士、作業療法士など

■対象施設

高齢者施設、障がい者施設、保育所、児童養護施設など

参加について

新型コロナウィルスの感染拡大防止のため、当日は発熱症状や風の症状のある方のご参加はご遠慮いただきますようお願いします。会場ではマスク・消毒へのご協力をお願いします。また新型コロナウィルスの影響などにより延期、中止となる可能性があります。参加ご希望の方は県社協のホームページまたは下記のお問い合わせ先にてご確認ください。

●お問い合わせ 福祉人材部 TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

とっとりボランティアバンクにご登録ください



登録したいと思ったら…

ボランティアバンクでは
こんなお手伝いをします

ボランティアの活動調整

ボランティアを募集する方と、活動する方との調整を行います。

ボランティア活動に関する情報提供(メルマガ)

登録された方に、ボランティア募集やボランティアに関する講座・研修などの情報をメールなどで提供します。

ボランティアバンクに登録いただくと…



県内外のボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を受け取ることができます。

ボランティアしたい人(団体)



ボランティアの力を借りたい団体

とっとりボランティアバンクのHPやメールマガを通じてボランティア募集やボランティア関連講座・研修などの情報を発信できます。

下記ホームページから登録いただくか、登録票に必要事項を記入のうえ、ファクシミリもしくはEメール、郵送にて送付してください。登録票は下記ホームページからダウンロードいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。

ホームページアドレス <http://www.torivc.jp/>



●お問い合わせ・ご相談 福祉人材部 鳥取県ボランティア・市民活動センターまで TEL0857-59-6336 FAX:0857-59-6341

令和2年度

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償 ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類	プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金 入院中の手術	65,000円	
	手術保険金 外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金（対人・対物共通）	5億円(限度額)	
年間保険料	350円	500円	

商品パンフレットは
コチラ



(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済／過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償（傷害保険）

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

福祉サービス総合補償

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3 を除きます。）

損保ジャパン日本興亜は、関係当局の認可等を前提として、
2020年4月1日に商号を変更し、「損保ジャパン」になります。

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
営業時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3 を除きます。）

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒に結ぶ団体契約です。

HOTeyeギャラリー

倉吉おもちゃの図書館アートくらぶ作品紹介

☆アートくらぶの目指すこと

倉吉おもちゃの図書館アートくらぶは、障がいの重い人が作品作りを通してそれぞれの個性を表現できること、を目指しています。



林 麻衣子様 作品



筏津 由佳様 作品

☆麻衣子の作品について【母:林 るみ子】

作品を作る時間は、本人自らの動きを待って待って、周りでサポートする人も思わず息を詰めて、色が紙の上に落とされるのを待ちます。出来上がった作品は、関わった人も含めて、その時を切り取ったものになります。

☆由佳の作品について【母:筏津 充代】

うつ伏せになり、手に絵の具をつけて描いています。本人の動きを大事にしています。今では、画用紙を見ながら腕を動かすようになりました。

障がい者が発信する、文化・アートの祭典「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバル in 中国・四国ブロック」が、倉吉未来中心(倉吉市駄経寺町)を会場として開催されます。
フェスティバルでは、アール・プリユット展や舞台発表、「じゅう劇場」による演劇、バリアフリー映画上映など様々なイベントが行われます。詳しくは、<https://shougaisya-fes.jp>をご覧ください。
(開催期間:令和2年9月5日、6日 ※アール・プリユット展は、~10日まで)

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)

URL <http://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp



鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp



ボランティア・活動支援担当

ボランティア担当 TEL.0857-59-6336
福祉・教育担当 TEL.0857-59-6344
FAX.0857-59-6341
URL http://www.tottori-wel.or.jp/p/jinzai/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

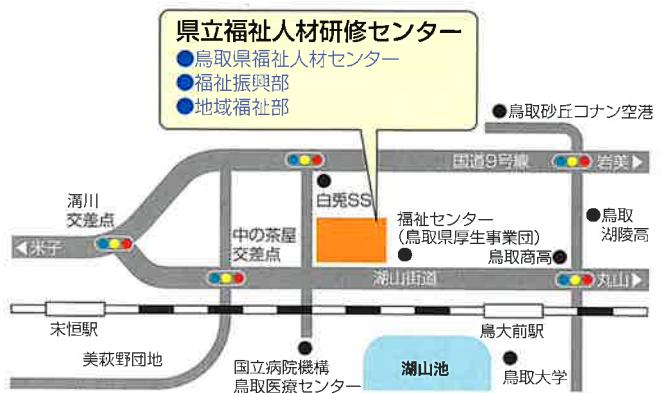


明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <http://www.tottori-wel.or.jp/p/chiiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp

県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 福祉振興部
- 地域福祉部



本誌について、また、福祉に関することについて

県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



鳥取県男女共同参画推進企業

「HOTeye ホットアイ」第104号／令和2年7月22日発行

発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340

印刷／日ノ丸印刷株式会社